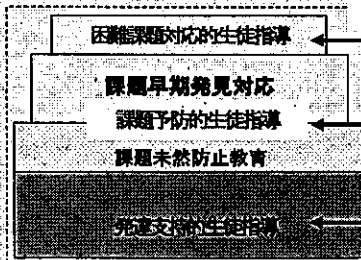


＜特集1＞

新しい生徒指導提要について

1 改訂の基本的な考え方

(1) これからの生徒指導
 「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～(答申)」等を踏まえ、目前の問題に対応する課題解決的な指導だけでなく児童生徒の発達を支え、「成長を促す」積極的な生徒指導を充実させる。



【重層的支援構造】

学校内では対応が困難な課題について、校外の専門家や関係機関等と連携しながら対応する。

特定の課題を想定しつつ(いじめや自殺予防、非行等)、未然防止教育や早期発見・対応に資する取組を実施する。

特定の課題を想定せず、思いやりや共感性、自己理解力や課題解決力等を育成する。

改訂の背景

平成22年に生徒指導提要が作成されて10年以上が経過したことや近年の生徒指導諸課題の深刻化を鑑み、関連法規や組織体制の在り方を反映するため改訂された。

(2) 個別の課題に関連する法規等の反映
 いじめ、不登校、児童虐待等について制定されている法律や通知等を理解し、それらの根拠に基づいた対応や指導・支援を行う。

(3) チーム支援等の考え方の反映
 児童生徒の理解を深め、学習指導と関連付けながらSC、SSWを含めた学校組織全体で生徒指導の充実を図るとともに、校外の関係機関等と連携・協働し、ネットワーク型支援チームによる組織的な対応を展開していく。「チームとしての学校の在り方と今後の改訂の方策について(答申)」(平成27年中央教育審議会)

2 個別の課題に関する主な内容

いじめ(第4章)

「いじめ防止対策推進法」(平成25年)に則り、積極的にいじめの認知を進めつつ、いじめの解消に向けた取組等、教職員一人一人の生徒指導力の向上、学校内外の組織的・迅速な対応が必要である。

＜いじめの未然防止＞

- 子供の人権意識を高め、道徳科や特別活動等がいじめをしない態度や能力を育てる。
- 「いじめ防止基本方針」を保護者・地域と共有し、学校内外でいじめ防止活動を行う。

＜早期発見対応＞

- 日々の健康観察、アンケート、面談等がいじめの予兆を捉える。
- 被害児童生徒の安全確保を最優先し、いじめ対策組織を構築する。

＜重大事態に発展させないための困難課題対応＞

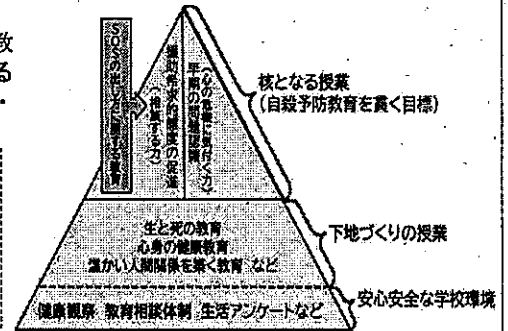
- 早い段階からSC・SSWを交えたケース会議で丁寧な見取りを行い多角的視点から組織的に対応する。
- 問題に応じて、警察等関係機関と連携を図る。

自殺(第8章)

命の大切さ等に係る教育を行うとともに、教職員一人一人の児童生徒のサインを受け止める力の向上と、自殺予防のための組織的な指導・相談体制の拡充を図ることが大切である。

＜自殺予防教育＞

- 「子供に伝えたい自殺予防」(平成26年文部科学省)における「核となる授業」を展開し児童生徒が自他の「心の危機に気付く力」と周りに「相談する力」を身に付ける。



校則(第3章6.1「校則の運用・見直し」)

校則は、学校が教育目的を実現するため、校長の権限で制定するものであり、地域の状況や社会の変化等を踏まえ、絶えず見直されることが必要である。

＜校則の運用＞

- 教職員が校則の背景や理由について理解し、児童生徒がその意味を理解し、自主的に校則を遵守できるように指導していく。
- 学校のHP等に公開したりして、制定した背景を示すことが重要。

＜校則の見直し＞

- 児童会・生徒会や保護者会を活用し、見直しの手続きを示すことが重要。
- 児童生徒の主体的な関与は、身近な課題を自ら解決するなどの教育的意義がある。

不登校(第10章)

全ての児童生徒にとって、学校、学級が安心・安全な居場所となるような取組を行うことが重要である。しかし、多様化する不登校に対しては、学校だけの力では十分な支援は難しくなっているのが現状である。その場合、不登校児童生徒への支援は、「登校する」という結果を目標にするのではなく児童生徒が自らの進路を主体的に捉え、社会的に自立する方向を目指すことが求められる。「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する基本指針の策定について(通知)」(平成29年文部科学省)

＜魅力ある学校づくり＞

- 安心・安全な居場所となる学級づくりや分かりやすい授業を実施する。
- 児童生徒がSOSを出す力を育てるとともに、教職員の受信力を高める。
- 教職員の相談力向上を図る取組を行う。

＜個々の状況に応じた不登校支援＞

- 児童生徒が安心して過ごせる場所を校内に確保し、組織的な支援のもと学習の機会を保障する。
- ICTを活用した教育機会を創出する。
- 本人に必要な関係機関(民間団体等)と情報を共有し連携体制を構築する。

性的マイノリティ(第12章5「性的マイノリティ」に関する課題と対応)

「いじめ防止対策推進法」に基づく「いじめの防止等のための基本的な方針」が平成29年に改訂され、性同一性障害や性的指向・性自認について、教職員が正しく理解し、学校として必要な対応を行うことが求められる。

＜学校での支援＞

- 「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」(平成27年通知)による、学校における支援事例を参考とし、個別の事情に応じて進める。
- 「性的マイノリティ」とされる児童生徒への配慮と、他の児童生徒への配慮との均衡を保った支援を進める。

学校と家庭とのよりよい協働によって児童生徒は育つ

学校と家庭とのよりよい協働を進めることは、互いの良さや役割の理解を深め、児童生徒相互の良好な人間関係づくりを後押しし、問題行動等の未然防止につながります。

Plan

【東三河地区の小学校における実践】

心豊かで思いやりのある子の育成

* 心のつながりを大切にしたい温かい安らぎのある学級・仲間づくりを目指す。

【共有(ともいく)】 子どもたちの「よりよく生きよう」とする思いを受け止め、「共に育ち合う」という姿勢で成長を支えていく。

目指す子ども像や生徒指導の重点等を、学校通信やWebページ等で保護者に伝えています。

全員達成「あはは」の実践(基本的な生活習慣を当たり前にする)

- 「あ」……いつでもどこでも誰にでも「あいさつ」「自分から」「地域の人へ」
- 「は」……靴箱とトイレの「はきものそろえ」
- 「は」……名前を呼ばれたら「はい」と返事

Do

【共有(ともいく)】

学校

「～してくださいから、一緒に～しましょう」へ

家庭

「なかよしスキルタイム」に取り組む児童の様子

学校で行える協働提供

先日、家庭におけるゲームの話が話題になったそうです。全ての子がゲームをしているわけではありませんので、加われない子が出てきます。大人はどう考え、どうアドバイスをすればよいでしょうか。今の時代は、保護者が良いと思うことを貫き通すことが難しい時代になったと感じます。一緒に過ごす友達の方針が、いつも同じようにはいかないのが現実です。子どもたちには、自分と考え方の違う子を疎外せず、それ以外の解決策を考えてほしいと思うのですが…。(一部抜粋)

保護者からの声

今年は、「学校が楽しい」と言っています。先生が、「なかよしスキルタイム」でゲームをやってくれるのが楽しいようです。

私が考えていたことは、学校からの通信に書いてあることと同じでした。学校と同じ受け止め方をしていくことが分かり、安心できます。

家庭での取組

「おはよう」「行ってらっしゃい」「お帰りの挨拶を大切にしています。穏やかな気持ちで過ごせます。

メッセージ欄に保護者の思いを書く時はしっかりと書くようにしています。保護者の気持ちが少しでも子どもに伝わるとよいと思っています。

子どもが声を掛けきた時には、「後で」とは言わないように心掛けています。

Check

- ・全教職員による取組の振り返り
- ・保護者の声から、取組への理解の深まりについて検証

Act

- ・進んで仲間と関わり、協力して活動できる児童生徒の育成
- ・保護者に協力してほしいことをより具体的に提示
- ・子育てについて保護者と共に考える機会の設定

子どもの様子や保護者に考えてほしい話題を伝え、情報共有の充実を図っています。

問題行動等の未然防止に向けた学校と家庭との協働の在り方 ～情報共有と行動連携による取組を通して～



いじめや暴力行為、様々なきっかけによる不登校等、児童生徒の問題行動等を解決するためには、早期発見・早期対応に努めるだけでなく、全ての児童生徒の規範意識や自己有用感等を育み、仲間とよりよい人間関係を構築できる力を育成する未然防止の取組が重要になってきています。そのためには、児童生徒の生活の場である学校と家庭が情報を共有し、信頼関係を築き、児童生徒の成長を協力して支援する体制を整えることが必要だと考えます。児童生徒の問題行動等の未然防止に向けた学校と家庭との協働の在り方を、今一度見直してみましょう。

「未然防止」には、教育的予防の視点が大切です

【参考】 国立教育政策研究所作成
生徒指導リーフ
Leaf.5「教育的予防」と「治療的予防」より

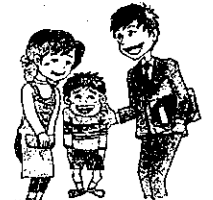
教育的予防	未然防止	全ての児童生徒を対象に、日頃から集団生活の中で規範意識や自己有用感等を醸成し、よりよい人間関係を構築していく力を育成していくこと。
治療的予防	早期発見 早期対応	該当児童生徒を対象に、いじめや不登校の兆候を早期に発見し、相談や解消に向けた支援等の対策を行い、重症化を防ぐこと。
	再発防止	該当児童生徒を対象に、問題発生の過程の振り返りと立ち直り支援等を実施し、再発防止に向けた働き掛けを行うこと。

★「未然防止」のために、学校は！

- 児童生徒が仲間と関わる楽しさや思いやりの気持ちを伝え合える環境や、悩みを共有し合える集団をつくっていきましょう。
- 児童生徒が学校生活を落ち着いて過ごすための話し合い活動や体験活動を温かく見守り、支援していきましょう。

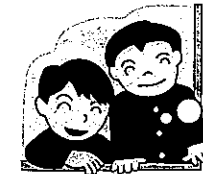
★学校と家庭との協働による取組を！

- 家庭ごとに、教育に対する保護者の考え方は様々です。家庭環境は、児童生徒の成長に大きな影響を与えることから、家庭の理解を得ることが大切です。積極的な話し合いを通じて、信頼・協力関係を構築していきましょう。
- よりよい協働のポイントは、情報共有と行動連携です。PDCAサイクルによる計画的な協働を進め、問題行動等の未然防止に向けた取組を推進しましょう。



仲間とよりよい人間関係を構築できる児童生徒

問題行動等の未然防止に向けてPDCAサイクルによる学校と家庭との協働の充実を図りましょう！



学校でも家庭でも、自分のことを見守ってくれることが分かったと、安心できるね。

児童生徒の規範意識・自己有用感等の醸成

計
画

◇ 児童生徒の活動のあらゆる機会を活用し、未然防止に向けた情報共有・行動連携による取組を計画的に設定しましょう！

- 児童生徒の成長にどのような成果が期待できるか、見直しをもって双方向からの働きかけを考える。
- 効果的な取組ができる機会や方法について保護者と話し合い、計画的に設定する。



取組の工夫例

- * 教育方針や取組のねらいの共有……年度当初の懇談会等で、いじめ防止基本方針や生徒指導方針を示し、具体的な取組について家庭と共有したいことを話し合う。

改
善

◇ 成果と課題を、新たな取組へつなげましょう！

- 学校・家庭からの働きかけの成果を児童生徒や保護者に伝え、今後の働きかけの継続と信頼関係の構築に結び付けていく。

取組の工夫例

- * 保護者が参加した行事・諸活動の見直し……校長を中心に、教頭・教務主任・行事担当教員等を構成員とするプロジェクトチームを編成し、改善の方向性について家庭との共通理解を図る。

見
直
し

◇ 「情報共有」・「行動連携」の取組について振り返りましょう！

- 児童生徒の言動や姿容について保護者から意見・要望を吸い上げ、学校と家庭との協働による取組を検証し、成果と新たな協働への課題を明確にする。

取組の工夫例

- * 実態調査の効果的な活用……定期的に実施する学校アンケートや学校評価の中に家庭との協働に関する項目を入れ、結果を懇談会等で提示して話し合う。(学校での様子についての情報発信の仕方・内容、親子参加型の行事の在り方 等)



◇ 情報共有の充実を図り、行動連携を促進しましょう！

- 休み時間・給食の時間等での児童生徒のつぶやき等に耳を傾け、その内容や様子から心の状態を捉え、家庭連絡をするなど、児童生徒を中心にして双方向の情報共有を心掛ける。
- 客観的な事実とともに、よりよい成長への思いを加えた伝達が心がける。



取組の工夫例

- * 学校・家庭での姿・様子の伝え合い……学校と家庭の双方から、それぞれの生活の場で捉えた児童生徒の良さを情報提供し合う。(挨拶、言葉遣い、係・委員会活動、ボランティア活動、地域行事の様子 等)
- * 保護者へのありがとうメッセージ……児童生徒の頑張りとともに、保護者の支援に対して感謝の思いを伝える。(連絡ノート・学級通信・電話連絡 等)

情
報
共
有

◇ 行動連携の充実を図り、児童生徒の支援効果を高めましょう！

- 「～してください」ではなく「一緒に～しましょう」という姿勢をもつ。
- 学校と家庭の良さや役割を生かし、同じ方向性をもって取り組む。

取組の工夫例

- * 行事記録での認め合い……児童生徒が仲間と協力して成し遂げた行事における取組をまとめた記録等に、担任と保護者から称賛の言葉を書き添える。(振り返りカード、壁新聞 等)
- * 親子で思いを共有する行事の設定……親子で参加するコンクール等の機会を設定する。(人権やいじめ撲滅を取り上げたポスター・作文・標語のコンクール 等)
- * 保護者主体の活動への協力・参加……保護者自らが企画・運営する行事・会合等に参加する。(PTA主催のスポーツ行事、児童生徒の健全育成に向けた会合 等)



行
動
連
携

学校の良さ

- 仲間の考え方・価値観等に触れ、見方や考え方を広げる場。
- 良さを生かし、やればできるという達成感を味わう場。

学校の役割

- 集団生活のルールを身に付けさせ、思いやりや感謝の心を育てる。
- 仲間と関わる楽しさや活動の喜びを味わわせ、自己有用感を育む。



家庭の良さ

- 幼少期からの成長を理解し、ささいなことでも安心して話せる場。
- 子どもの思いを受け止め、その努力を認めて成長を後押しできる場。

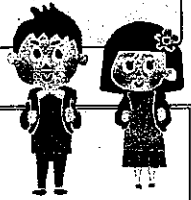
家庭の役割

- 日常生活に必要なしつけを行い、集団生活を送るための基礎を培う。
- 手伝いなど家庭の役割を果たす中で、家族の中で自己有用感を育む。



学校と家庭のそれぞれの良さと役割を共通理解した上での信頼・協力関係の構築

問題行動等の未然防止に向けた学校と家庭との協働の在り方
～情報共有と行動連携による取組を通して～



Plan

小学校の実践

現状
研究テーマ

◇本校児童の実態

- 明るく朗らかな児童が多い。
- △よりよい人間関係を作ることが学ぶ機会が少なくなっている。
 - ・自分にとっての損得を優先して、判断してしまう。
 - ・相手の気持ちを考えずに行動してしまう。
 - ・自分の思い通りにならないと他人を攻撃してしまう。

思いやりの心を持ち、よりよい人間関係を築く児童の育成
～相互理解を深める交流活動や学校と家庭・地域との協働による取組を通して～

〈主な取組の柱〉

- ・児童同士が意見交流などの関わり合う場をつくり、互いの考えや思いを聞き合えるような指導方法の改善を図る。
- ・学校と家庭・地域が協働して児童の自己肯定感や自己有用感を高める活動を工夫する。

◇思いやりに関する道徳的心情・価値観を高める指導の工夫

- ・「親切」「協力」「友情」に重点

◇思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って判断しようとする態度を育むための、相互理解を深める交流活動

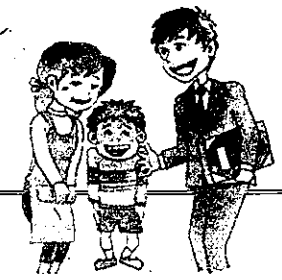
- ・授業等における意見交流活動の充実、及び自己評価、他者評価の設定
- ・異学年交流行事の実施
- ・学校と家庭相互の児童の様子等の情報共有

◇行事、交流活動ごとの振り返りシートや各種通信の活用

- ・交流活動における自己の目標の設定と活動後の振り返り
- ・学校と家庭の両方からコメントを記入
- ・児童の自己肯定感や自己有用感の高まりを把握し、改善点の洗い出しと検討

◇学校評価に「学校と家庭の協働」項目を新設

- ・「家庭・地域と情報の共有」等の設問を設定

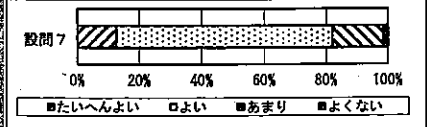


Check

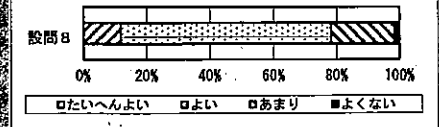
学校評価の項目に位置付け、外部の目でチェック、検証を受けよう。

家庭・地域の学校評価等

設問7 家庭と地域と情報の共有



設問8 およそを認め合う家庭と地域との連携



- ◎1年間の学校の取組を振り返り、学校と家庭・地域との情報共有や行動連携が図られるようになったと実感できる保護者が増えた。
- ◎2学期に実施した学校評価アンケートの「学校の持ち手（保護者）に分かりやすく伝えている」「子どものことに関する事柄や相談に適切に対応している」の回答が昨年度を超過の結果となり、学校の取組が保護者や地域の方に対して受け止められていることが分かった。

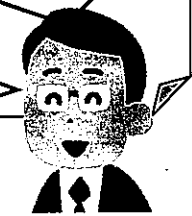
児童の変容



自分から話しかけたり、声をかけられたら答えたりして、仲良くなりました。来学期は、自分だけでなくみんなが楽しいと思うように自分から話しかけていきたいです。
〈交流活動後の児童の感想〉

様々な交流活動を通して、相手への思いやりの心をもって他者に接することのできる児童が多く見られるようになった。
〈教師の声〉

教師や保護者からの振り返りシートの励ましにより、自分に自信がもてる児童も増えた。学校と家庭・地域との情報共有は、児童に対する互いの思いを共有することにもつながり、良好な関係を築くことができた。
〈教師の声〉



Act

よりよい改善に向けて

- ◇ 各教科等の授業の改善
 - ・児童の道徳的価値を深めさせる指導の工夫・改善を行い、発達段階に応じた意見交流活動の充実を図る。
- ◇ 道徳的实践化を図る交流活動の充実
 - ・児童の参画による異学年交流活動の計画・立案をはじめ、年間計画とこの内容を検討し、充実を図る。
- ◇ 学校と家庭、双方向からの児童へのはたらきかけや情報共有の方法
 - ・振り返りシートや各種お便りの効果的な活用の仕方を検討する。
 - ・学校と家庭・地域とのよりよい協働に向けた取組の一層の充実を図る。

思いやりの心もち、よりよい人間関係を築く児童の育成 ～相手の立場に立って判断しようとする態度を育む指導の工夫を通して～

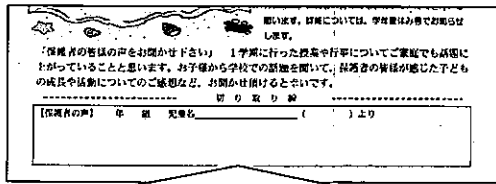
積極的に子供たちの良さを伝え合おう。まずは学校から家庭へ働きかけをしよう。

学校と家庭が同じ方向性を持ち、子供たちの取組を支援しよう。

情報共有

◇児童の様子を伝え合う場の設定

- ・学校での様子について家庭で話題に上がったことを連絡していただけるように学年通信で依頼する。
- ・集まった意見は、学校便りで紹介する。

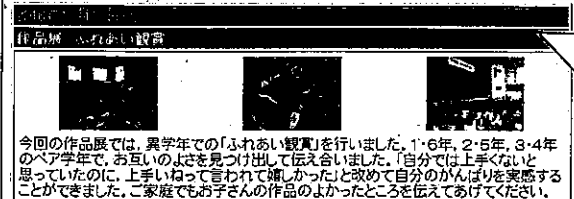


<「学年通信」で依頼するポイント>

- 保護者の負担感から考え、月1回発行する「学年通信」の頻度がちょうどよい。
- 「学年通信」で依頼することで、学校行事への意見だけではなく、学級（学年）の取組や担任に対する意見を書いてもらいやすい。

◇情報共有を図る場と伝える工夫

伝える場	伝える工夫・留意点
Web ページ	○児童の「思いやり」が感じられる場面や頑張りを認める記事を掲載することで、学校の取組に対する理解の促進を図る。
学校便り	○従来の学校便りの内容に加え、家庭や地域から寄せられた意見を積極的に発信する。
学校評価	○「協働」に対する評価項目を作成し、家庭や地域からの意見を集約して公表することで、家庭や地域にフィードバックする。



保護者が普段目にする機会が少ない活動の記事を、こまめに更新したい。学年が偏らず、どの学年も記事がアップされていると、関心が高まる。

行動連携

◇基本的な生活習慣の定着を図るための「重点目標」の周知

- ・よりよい人間関係を築く基礎としての「基本的な生活習慣」の定着を図るため、家庭や地域において、学校と同一歩調で児童に指導していただけるよう、重点目標を、繰り返し家庭や地域に伝え、周知を図る。

「あいさつ・返事・うた・清掃、時間遵守の〇〇っ子」のようなスローガンにすると周知が図られやすい。

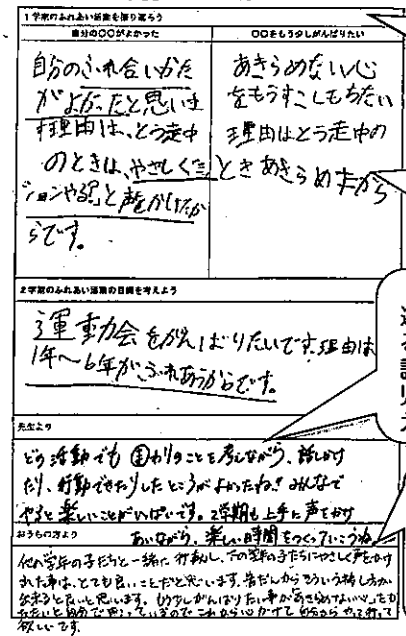


◇学校と家庭・地域が連携して取り組む活動を増やす

- ・例年学校と家庭、地域で取り組む「親子奉仕活動」や「ふれあい運動会」に加え、保護者にも学んでいただける機会として「交通安全教室」「情報モラル出前授業」「児童学校保健委員会」への参加を呼びかける。

◇行事や交流活動の「振り返りシート」での認め合い・相互理解

- ・教師と保護者のそれぞれの立場から言葉を書き添え、児童のよさを認めていく。



児童を介して、学校と家庭が、互いの思いを知り合う機会にもなる。

「振り返り」単に「反省」とするのではなく、「よかったところ」や「がんばりたいところ」など、視点を示して振り返らせたい。

「担任より」道徳的心情や価値観を高めたり、自己肯定感を高めたりできるよう、児童なりの頑張りを認めるとともに、児童自身や保護者も気づかない良さや思いやりのある行動について伝える。児童の良さを伝えることは、児童を肯定的に捉えて成長を支える学校の姿勢を示すことにつながる。

「おうちの方より」児童に対して保護者として何を望み、どのような見方をしているのかを捉える機会としたい。また、児童を共に育てていくための良好な関係を築くよう、懇談会等、保護者と連絡をとったり面談したりする機会において、感謝の気持ちを伝えたい。

主体的に活動する生徒の育成

～生徒会を中心として、いじめ0の学校を目指す取組を通して～

「いじめ0」は生徒会のスローガンであり、教師は、いじめはどの生徒にも起こりうるものと考え、対応しています。

学校と家庭の双方から、互いの生活の場で捉えた生徒についての情報を、風通し良く伝え合うことが大切だと思います。

学校と共にいじめを許さない気運を高めるため、学校いじめ防止基本方針について、家庭や地域にも周知しています。

情報共有

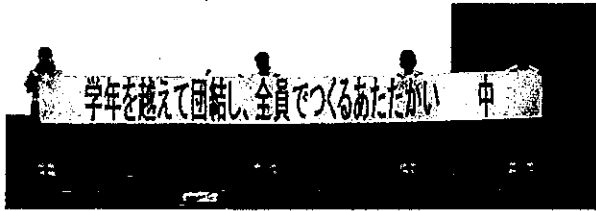
行動連携

◇「いじめ0」の取組や主体的に活動する生徒の様子を伝える工夫

- ・学校新聞、学年通信、Web ページ等を通じて、生徒の主体的な取組の様子を発信した。その場合、事実のみではなく、家庭や地域に伝わりにくい部分（生徒の思いや、学校の願い、取組のつながり等）について意識して伝えている。

【発信した情報の例】 ※上段：学校新聞、下段：Web ページ

5月20日（金）に行われた学校集会では、平成28年度の生徒会年間スローガンを発表しました。全校からアイデアを募り、生徒会役員で話し合った結果、「学年を越えて団結し、全員でつくるあたたかい〇〇中」としました。このスローガンにかかる思いが生徒会役員の話からも伝わってきました。



2016年4月15日(金)
無言通信伝言式

体育館で、3年生の代表が無言通信の旗を掲げた後、それぞれ教室で、無言通信の方法を3年生が1年生に丁寧に伝えました。無言通信も、これして新たな〇〇中の伝統として形が固まっています。

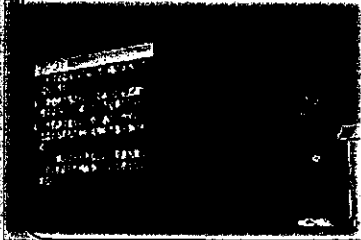


2016年9月5日(月)
生徒会プロジェクトみんなで Say Hello!! スタート

「学年を越えて団結し、全員でつくるあたたかい〇〇中」というスローガンを掲げ、廊下ですぐ逢う先生や校外からの来賓にも「さん、元気、笑顔」を伝えて挨拶できることを目指します。挨拶が飛び交うあたたかい学校へとつながります。

ウェブページでの発信は、情報の鮮度が大切。できるだけ早く発信することを心掛けて、閲覧数を伸ばしました。

◇文化発表会での生徒会による「いじめ防止アピール」



- ・保護者や地域の皆さんに参観していただける行事において実施することで、広く周知を図った。

中学校でどのような取組を行っているのか知ることができました。子供たちの、本当にいじめをなくしたいという思いが伝わってきました。いじめ0の学校になるように、期待しています。
〈保護者の声〉

◇家庭での「いじめアンケート」

- ・人目を気にすることなく記入できるよう、家庭に持ち帰らせて実施する。アンケートには保護者が記入できる欄も設け、必要に応じて記入していただく。
- ・「いじめ」について家庭での話題にしたり、保護者からの情報提供や、保護者の思いを知ったりする機会になることも期待し、実施した。
- ・生徒や保護者が安心して記入できるよう、相談や訴えのあった生徒が、他の生徒から特定されないよう、その後の対応について十分に留意することを生徒や保護者にアピールした。



【実際のやりとり】

1/5 昨日は、お急いせ連絡下さいとあり、お返事をしました。
友人の行き過ぎた言動が、お返事も出来ず、うらやまの気持ちが、知らず知らずと相手も傷つけていたかも知れません。
でも、お返事をしたいので、お返事をしました。
いっ、相手の気持ちに寄り添って行動する様に子供には言いませうと、お返事をしました。保護者
今朝の件は、お返事をしました。お返事をしました。保護者
お返事をしました。お返事をしました。担任

◇日常的な家庭とのやり取りのツール「学習・生活ノート」の活用

担任は、保護者の思いを、頭ごなしに否定せず、くみ取る姿勢や、感謝の気持ちを伝える返信に心掛けています。伝えてよかったと思っただけのような、保護者の自己有用感を高めることが大切だと思います。

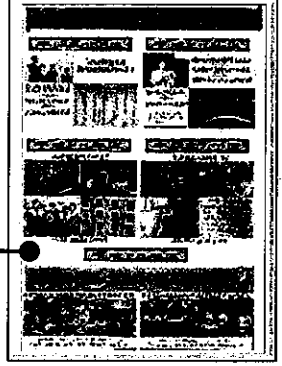
◇地域との既存の会議の活用

- ・防犯サポートネットワーク会議において生徒の取組を紹介するとともに、本校の現状を伝え、協力を仰いだ。
- ・学校の取組に対し意見をいただくことでいじめ防止対策の検証に生かす。



(シンボルマーク)

生徒から募集した、いじめ防止のシンボルマークと、これまでの生徒会主催の取組を印刷したクリアファイルを作成し、家庭や地域に配付しました。



問題行動等の未然防止に向けた学校と家庭との協働の在り方
～情報共有と行動連携による取組を通して～



Plan

中学校の実践

現状

◇自校生徒の実態

- 4年にわたり、生徒会が中心となって、いじめ0を目指した学校づくりに取り組んでいる。
- 生徒会活動を充実させ、互いに認め合う集団づくりを推進してきた結果、年を重ねるごとに、生徒の主体性が高まってきた。
- △生徒会役員と他の生徒との間に意識のずれが生じている。

研究テーマ

主体的に活動する生徒の育成

～生徒会を中心として、いじめ0の学校を目指す取組を通して～

＜主な取組の柱＞

- ・身近ないじめの問題に目を向け、いじめ0の学校を目指すことをテーマに、生徒会を中心として取組を計画・実践することで、主体的に活動する生徒の育成を図る。
- ・いじめの未然防止・早期対応に向けた学校と家庭・地域が協働する活動を工夫する。

計画

◇いじめ0の学校を目指した生徒会主催の取組の実施

- ・一年間を通じた、いじめ0の学校を目指すスローガンの策定
- ・前期生徒会、後期生徒会ごとの思いやりを育む活動の計画及び、実践
- ・取組内容について、家庭や地域に向けた生徒による情報の発信

◇いじめ0の学校を目指した学級活動の実施

- ・生徒一人一人に、自分自身の問題として考えさせる機会の設定

◇家庭や地域との協働を意識した取組の実施

- ・生徒のよさを共有したり、学校と家庭、地域が互いの考えを伝え合ったりするための取組の工夫

◇家庭での「いじめアンケート」の実施

- ・家庭においていじめについて話し合える機会とするとともに、保護者からの意見を吸い上げる機会として、「いじめアンケート」の家庭での実施

◇学校評価において、「学校と家庭との協働」に係る意見を集約

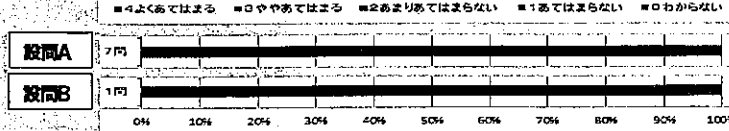
- ・「学校と家庭との協働」に関して意見を記入できる欄の設定

Check

学校評価の項目に位置付けるとともに、保護者や地域の思いを書いていただける「意見欄」の活用を図っています。

家庭・地域の学校評価等

設問A：お子さんには、相談できる仲の良い友達はいませんか。
設問B：学校は、部活動や生徒会活動に力を入れていると思いますか。



○設問Aについては、8割の保護者が「よく当てはまる」「やや当てはまる」と肯定的に回答。多くの保護者が、相談できる仲の良い友達がいると感じている。仲の良い友達がいることで悩み事や相談事などを相談できる生徒が多い。
○設問Bについては、9割近くの保護者が「よく当てはまる」「やや当てはまる」と肯定的に回答。多くの保護者が、部活動はもちろん、生徒会活動にも理解を示しており、生徒会活動の柱である「いじめ0の学校を目指す取組」についても、理解を示している。

生徒の聲音

・いじめは、意外と自分に近いところにあると感じた。他人事だと思わず、日頃のささいなところから、相手の満足を意識したいです。
・「あたたかい」という言葉には、いろいろな思いが込められていると感じた。私も「あたたかい」行動ができる人になりたいです。
＜生徒の声＞

・学校便りや学級便りで、毎日の様子がとてもよく分かり読むことを楽しみにしています。子供と話すきっかけにもなっています。
・「学校が楽しい」と言っています。思春期の難しい時期に感謝です。
＜保護者の声＞

生徒会を中心としたさまざまな「いじめ0に向けた取組」によって、多くの生徒が、いじめをなくしたいと思える学校の雰囲気を作り上げることができました。
＜教師の声＞

Act

よりよい活動に向けて

- ◇ 積極的な発信
 - ・ 生徒会の取組について、家庭や地域への発信をさらに積極的に行う。
- ◇ 家庭・地域との連携
 - ・ 家庭や地域と手を取り合っ取組を行うことが希薄であったため、今後は、一層の充実を図っていく。

